

心不全患者における社会的孤立と抑うつ症状の併存が

予後に与える影響 へのご協力をお願い

このたび、入院された心不全患者さんを対象に社会的孤立、抑うつ症状や社会的孤立と抑うつ症状の併存が退院後の症状増悪に与える影響を明確にする研究を行いますのでご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーは漏洩しないように留意いたします。

本研究は過去の診療録を使用し研究を行います。下記研究期間内に入院された患者さんで、本研究への参加を望まれない患者さんは、研究責任者にご連絡の程どうぞよろしくお願いいたします。

1. 対象となる方

2023年4月1日から2024年12月31日の間に心不全で入院された患者さん

2. 研究課題名

心不全患者における社会的孤立と抑うつ症状の併存が予後に与える影響

3. 研究実施機関

山口県立総合医療センター リハビリテーション部

研究責任者：三浦 正和（理学療法士）

4. 研究の意義、目的、方法

心不全は症状の寛解、増悪を繰り返しながら徐々に寿命を縮める疾患です。一方、患者さん本人、家族、地域による支援により病状を安定化できる特徴があります。近年、超高齢化に伴い、家族や地域社会との関わりを弱める客観的状況を示す社会的孤立が大きな問題となっており、社会的孤立や孤独感は抑うつ症状発症の最も重要な因子です。社会的孤立や孤独は、新規心不全発症の主要なリスク因子であり、社会的孤立や孤独を抑止することは心不全による再入院率の軽減につながる可能性があります。さらに、抑うつ症状は心不全管理における自己管理能力と関連しており、心不全再入院リスクの増加と負の関連性が示されています。社会的孤立や孤独と抑うつ症状はそれぞれ単独で心不全の病態と密接に関連しています。社会的孤立が抑うつ症状を引き起こすメカニズムを鑑みると、社会的孤立と抑うつ症状を併存している患者さんが多く存在することが予測されます。

そこで本研究の目的は、心不全患者さんにおける社会的孤立と抑うつ症状の併存の臨床的特徴や退院1年以内の予後に影響するか明確にすることとしました。

5. 協力をお願いする内容

診療録（カルテデータ）から心不全の基礎疾患、年齢、性別、Body Mass Index、世帯、介護保険（介護認定の有無）、合併症、心不全の病態・心機能、左室駆出率等、血液検査値、内服薬、身体機能、栄養状態等を調査いたします。

6. 研究実施期間

2023年4月1日から2024年12月31日までに心不全で入院し、予後を追跡できた患者さんを登録します。山口県立総合医療センター臨床研究倫理審査委員会から研究の承諾を得て2026年12月31日までにデータ解析を実施し論文を作成します。

7. プライバシーの保護について

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成28年法律第89号）に則り、個人情報の取り扱いには、十分に配慮いたします。研究対象者の性別、疾患名等の個人情報はすべて加工し、研究対象者を特定できる用法を含まないようにします。しかし、後々データ内容に誤記入がないか確認するために、患者さんのデータを記載させていただいた紙媒体を番号化し、データを解析する段階ではその番号と患者さんの個人データが一致するようにします。そのため、紙媒体、及びデータを入力した外付け記録媒体であるUSBは研究責任である三浦正和が所属する山口県立総合医療センターの施設が可能な個人のロッカーにて厳重に保存いたします。

8. お問い合わせ

この研究について、何かお聞きになりたいこと、心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく研究責任者にお尋ねください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報保護や当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究方法に関する資料を閲覧することができます。

【研究責任者】

研究参加にご同意をいただけない患者さん及び関係者の皆様からの相談等への対応窓口は以下の通りです。

〒747-8511 山口県防府市大字大崎 10077 山口県立総合医療センター

研究責任者：三浦 正和（リハビリテーション部 理学療法士）

連絡先：0835-22-4411（山口県立総合医療センター）